

二〇一九年度 東北大学前期試験 国語解答・解説及び配点予想

※ここでは国語を100点満点で考えています。学部学科によって満点が異なることも考えられますが、配点のポイントは共通であると考えられます。

一 【現代文】

【解答例】

問(一) (1) 増幅 (2) 排除 (3) 滞在 (4) 網目 (5) 建立

問(二) 臼の音が心地よい音楽として村にこだますることで、村人だけでなく稲の神をもよろこばせる働き。(四十五字)

問(三) 村で鳴るブバリンの音が、遠くの森にいる狩人に自分の村の所在を教えているという合理的な解釈。(四十五字)

問(四) 合理的な言葉以前の声により、自然と文化が一体となり、そこから新たな言葉が生まれてくる状態。(四十五字)

問(五) 他民族の文化を言葉によって機能的・合理的に分析するのではなく、言葉以前の声や音への感受性を通じた、自然との一体感の中で捉えようとする態度。(六十九字)

【配点予想】(三十点)

共通

・ 指定字数の半分以下のものは得点なし。

・ 誤字・脱字・表現の誤りなどはそれぞれ1点減。

・ 末尾の句点を脱した場合、1点減(以下同じ)。

設問ごと

問(一) 1点×5 解答通り

問(二) 5点 ポイント以下の通り

a 主語「臼の音が」を説明しているか。

b aが心地よい音楽となることを説明しているか。

c bにより、人も神も共によるこぶことを説明しているか。

※ aのみでは不可。

問(三) 5点 ポイント以下の通り

- a 主語「ブバリンの音が」を説明しているか。
 - b 森にいる狩人に村の位置を教えていることを説明しているか。
 - c bが合理的な分析であることを説明しているか。
- ※ aのみでは不可。

問(四) 5点 ポイント以下の通り

- a 言葉と声を比較して説明しているか。
- b 分析的な関係ではなく一体的な関係であることを説明しているか。
- c bの関係から、さらに新たな言葉が生まれることを説明しているか。

問(五) 10点 ポイント以下の通り

- a 目的語「他文化を」を説明しているか。
- b 「言葉による分析」と「声や音に基づく一体感による把握」の構造を過不足なく説明しているか。

【解説(総合)】

岩田慶治「音・時・言葉」からの出題。文化人類学のフィールドワークの経験から、言葉による分析的な思考以前の「音」や「声」の重要性について述べる。本文の長さで設問数はほぼ例年通りだが、本文は具体的な記述が多く、内容は読み取りやすい。

【解説(設問ごと)】

問(一) 漢字問題。標準的なものである。

問(二) 傍線部分「イバン族の臼」について、筆者が楽器としてのどのような働きを見出しているかを問われている。直後の段落で説明になっている。

問(三) 傍線部「音の灯台」がスマライ族のブバリンに対するどのような比喩的な解釈かを問われている。直前の文脈が説明。傍線以降の文脈はスマライ族の解釈ではなく、筆者自身の解釈なので注意。

問(四) 傍線部の「声によって」成就される「交流」や「共存」とはどのような状態かを問われている。傍線部直後の「感動した」とある部分が、冒頭部分「自然と文化が一つになって息づき、そこにももの名が誕生する現場に立ちあっているような、不思議な感動に捉えられた」と対応している。ここから見て、単に「異界との想像を超えた交流」などと説明するよりは、傍線部直後の「音以前の世界から、音が生まれ、音が誕生し、言葉がよみがえってくる」の部分を説明した方がより端的な説明になると考えられ

問(五) 傍線部について、筆者がどのような態度でフィールドワークを行おうとしているかを、本文全体の趣旨に即して説明する問題。

本文は「言葉」と「音・声」の対比構造になっているので、バランスよくまとめろ。東北大の典型問題。

二 【現代文】（小説）

【解答例】

問(一) (1) 小さくまとまっているさま。

(2) 何かをしようとしてひるむこと。

(3) 親しみがなく冷淡だった。

問(二) 長く本の中に隠れていた鳥たちの、ようやく人の目に触れることができてほっとしている様子。(四十三字)

問(三) 誰も気を配っていないと思っていた自分の読書傾向を、司書が把握していたことが意外だったから。(四十五字)

問(四) 「小父さん」が借りる本が、必ず鳥に関係しているということ。(二十九字)

問(五) 自分だけがその言葉を理解できた兄の死後孤独を感じていたが、若い司書が自分の読書傾向を知っていたことで、彼女に興味を持つと共に前向きになっている気持ち。(七十五字)

【配点予想】(三十点)

問(一) 1点×3 解答通り

問(二) 5点 ポイント以下の通り

a 鳥たちが長く隠れていたことを説明しているか。

b aがやつと人目(外界)に触れたことを説明しているか。

c 「やれやれ」の心情を説明しているか。

※ aのみでは不可。

問(三) 8点 ポイント以下の通り

a 自分の読書傾向を誰も意識していないと考えていたことを説明しているか。

b aを若い司書から指摘されて驚いたことを説明しているか。

問(四) 4点 ポイント以下の通り

a 主語「小父さん(が借りる本)」について説明しているか。

b aが必ず鳥に関係していることを説明しているか。

※ aのみでは不可。

問(五) 10点 ポイント以下の通り

- a 兄の言葉を自分だけが理解できていたことを説明しているか。
- b 司書だけが自分の読書傾向を知っていたことを説明しているか。
- c 傍線部の心情に触れているか。

【解説(総合)】

小川洋子「ことり」からの出題。兄の死以来、図書館で鳥に関する本しか借りていなかった「小父さん」が若い司書から思いがけずその事を指摘され、彼女への興味を持つ場面。本文の長さで設問数はほぼ例年通りだが、本文後半にやや幻想的なニュアンスを含む。

【解説(設問ごと)】

問(一) 語彙問題。標準的なものである。

問(二) 傍線部に表れた「小鳥たちの様子」を説明する問題。直前の文脈で説明できる。

問(三) 傍線部で「小父さん」が狼狽した理由を説明する問題。直前と問一の「気後れ」の文脈で説明できる。字数に納めるのがやや難しいか。

問(四) 傍線部「鳥の法則」が何を指しているかを問われている。直前の文脈で出る。

問(五) 傍線部「(小父さんは)彼女の声をもっとよく聞きたくて、更に力一杯ペダルを踏んだ」に表れた「小父さん」の気持ちを「小父さん」の心情の変化に即して説明する問題。問(三)で出た対比構造を考えれば「心情の変化」の方向が出る。



特訓予備校

©

養賢ゼミナール

三 【古文】

【解答例】

問(一) (1) このようにした

(2) 自分ほどのすぐれた人間もないようだけれども

(3) 軽んじなさらなさい

問(二) 女が男のことを、世の中は無常なものだから、貧しいままでいることはないだろうと言っている。(四十四字)

問(三) 自分の狭い見で、男を働きの隣人と比較して、非難する態度。(三十字)

問(四) 男の酒代のために髪を売ったのに、酔った男から、男に対する態度や髪を切った容姿について非難され出ていくように言われたこと。(六十字)

問(五) 貧しい時に仲が良くても、裕福になると仲が悪くなりがちであるということ。(三十五字)

【配点予想】(二十点)

問(一) 1点×3 計3点

問(二) 4点

・「飛鳥河の淵瀬」を踏まえ、世の中が無常であることを指摘。(2点)

・女が男のことを、貧しいままでいるまいと言っていることを指摘。(2点)

問(三) 3点

・真面目に働く隣人を高く評価していることを指摘。(1点)

・「浅はかなる」を説明している。(1点)

・男を非難していることを指摘。(1点)

問(四) 6点

・男のために髪の毛を売ったことを指摘。(2点)

・男が女の態度や髪を切った姿を非難していることを指摘。(2点)

・男が女に家を出ていくように言っていることを指摘。(2点)

問(五) 4点

・貧しい時に仲が良いということを指摘。(2点)

・裕福になると仲が悪くなりやすいということを指摘。(2点)

【解説】

江戸時代の随筆『宿直物語』(沢田名垂)からの出題。昨年に続いて本文全体の大意は分かりやすい。ただし、設問を解くには字数におさめる文章力と、高度な語彙力が求められる。

問(一) (1) 「しかじか」は指示副詞。「なん」は係助詞で、訳さなくても良い。

「つる」は完了の助動詞「つ」の連体形。

(2) 「ざんなれ」は打消の助動詞「ず」の連体形撥音便+伝聞推定の助動詞「なり」の已然形。

(3) 「なくそ」で禁止。「おぼしあなづり」は尊敬語「おぼしあなづる」の連用形。一語として訳す。

問(二) 「あり果つ」は、「いつまでも同じ状態を続ける」という意である。

「じ」は打消推量の助動詞。

飛鳥川は、明日香地方を貫流して奈良盆地の中央で大和川に注ぐ川。注にもあるように、淵瀬が定まらないことから、世の無常の例えとして歌に多く詠まれている。

設問に「根拠を明らかにしつつ」とあるので、世の中が無常であることを指摘すべき。

問(三) 直前の内容をまとめる。「大ざうなる」は少し訳しにくい。

問(四) 「本文の内容に即して」とあるので、女が自らの髪を売ったこと、それを男が非難したこと、問(三)の内容、さらに「いづ方へなりとも出でおはせよ」と言われたことをまとめればよい。

問(五) 「男女の関係の傾向」なので、本文全体というよりは、最終段落の「大かたの人の心ばへ」についてまとめる。

なお、「糟糠の妻は、堂より下さず」とは、「貧しいときから苦労をともししてきた妻は、富貴になってからも大事にして見捨てない」という意味。

【全訳】

五条辺りに、とても貧しく暮らしていた女と男がいた。男はどこまでも酒を好んでいたけれども、(貧しくて)買うこともできなかつたので、妻はとてどうしようもないと思って、自分の頭髮の半分くらいを切って市に持って行き、酒に換えて男にすすめた。男は

驚き、どうやって買いなさったのかと問うと、このようにし（て買つ）たと語ったので、男はしきりに涙を流して泣き、ああ世が世なら、こうまで落ちぶれ果てるような身ではないのに、「短きものを端切る（悪いことの上に更に悪いことが起こる）」とかいうたとえよりもひどくて、愛する人の髪をまでも切らせたことだよ、と齒ざしりをしながら嘆くのを、「そのように嘆きなさるな、飛鳥川の淵と瀬のように、無常である世の中なので、いつまでもこのままではいなさるまい」などと慰めながら、柴を折って焚きすぐ（酒を）温めて（男に）さし出しすめたところ、男もしいに気持ちもち直して、滅多にないことに（酒器を）傾けるうちに、すぐに酔っ払って意気があがり、「今の世の中に自分ほどのすぐれた人間もないようだけれども、好機が来ていないのでつまらない渡世をしているのです。とはいうもののそのうち見ていてください、どこかの畔で釣りをしていた老人（※太公望呂尚のこと。文王が渭水で魚釣りをする呂尚を見つけ、先君の太公が望んでいた賢者であるとした故事に基づいている）のように、急な幸運を得て（天下に名を）鳴り響かせるつもりですので、貴女にも眩しく輝く衣を着せ、素晴らしい几帳の中で大切に世話をさせよう、いい加減な戯言だと馬鹿になさってはいけない」などと、頬を緩めて話し続けるうちに酒が尽きてしまったので、「夜は更けてしまっているだろうか、酔いが醒めきらないうちに、はやくはお休みください」とすすめると、「ああ不愛想だなあ、これほどの気晴らしは無いでしょうに、一日二日遅らせて（世に出るのが）先に延びたとしても、どれほどのことがあるでしょうか、いや、どれほどのことでもありません。ともかくいつもの酔いとお思いにならず静かに聞いて下さい。それというのも実は貴女は天下の広々としていて、人が指さして愚かだと言ふことも分別しなさらず、隣の年寄りが、一晩中縄をない、履物作りなどで休むことなく働くのを頼もしいことにお思いになって、ややもすると私が不真面目であるのを責めたてなさるのが理解できません。そのような浅はかなお心では、私の将来のお后となる人に備わりなさるべきお心ではいらつしやらない。概して人の妻であるための心遣いとしては全てのことには足りてはいなくても、髪形や恰好をきちんとして、微笑んで顔を向け、男に良く思われようとつとめ励むことこそが、女に相応しい振る舞いであると言う。まずその貴女の髪の様子を、水鏡でも見ていらつしやい。頭に瘡を患っている尼法師を見ているようで、このように向かい合うのでさえ興ざめに感じられます。どうせならその片側に残っているのも同じく金のためにそり落として、どこへなりとも出て行ってしまいなさい」などと、いとわしそくに言い終わる前に一人寝てしまった。女はあまりに驚き呆れてしまつて何も言うことができなくて座っていたが、思うことがあつたのだろうか、

破られるだろう夫婦の約束と前もって思っていただろうか。

情けで換えた寢床の黒髪。

と枕もとにある柱に書き付けて、夜のうちに出て行ったということだ。

おおよその人の性質もここまではないけれども、苦しい中で親しくしているのは易しく、裕福な時に疎遠にならないのはとても難しいことだよ。「糟糠の妻は、堂より下さず」とか言ったという人の心のあり様は、とても尊いことだ。

四 【漢文】

【解答例】

問(一) (1) すなわ(は)ちしんゆうにつきて

(2) みなこれによりていず(づ)

問(二) 有名になつた

将来

問(三) 父が集めた書物

(イ)(ア)(b)(a) 学問で名を成した息子たち

問(四) たくさん集めた書物も息子たちが読まなければ役に立たないこと。(三十字)

問(五) 古の学者たちが書物を入手するのに苦労したことを述べることで、息子たちに収集した書物を活用して出世させようとする意図。(五十八字)

【配点予想】(二十点)

問(一) 2点×2 解答通り

問(二) 1点×2 解答通り

問(三) 2点×2 ニュアンスが出ていれば可。

問(四) 4点 ポイント以下の通り

a 傍線部の反語構文を訳しているか。

b 直前の内容を踏まえているか。

問(五) 6点 ポイント以下の通り

a 三人の学者の共通点を説明しているか。

b 息子たちへの期待の内容を説明しているか。

【解説(総合)】

李濂「藏書閣記」からの出題。古の学者たちが書物を入手できずに苦勞して学問を修めたことを述べて、自分の息子たちは自分が集めた書物を活用して家名をあげて欲しいことを述べる。本文の長さで設問数はほぼ例年通りだが、傍線部そのものの意味を問う問題が多く、全体にやや易化した印象。

【解説(設問ごと)】

- 問(一) 短文の書き下し問題。標準的なものである。
- 問(二) 傍線の語句の意味を問う問題。やはり標準的。
- 問(三) 二か所の指示語「之」の内容を問う問題。「本文の内容に即して」の指定に注意。
- 問(四) 傍線部の言葉の意味を問う問題。傍線部そのものは反語構文なので、「たくさんあっても何になるだろうか」という方向になる。後は目的語である「藏書」について説明すればよい。
- 問(五) 筆者が本文で三人の昔の学者に言及した意図を、本文全体の趣旨を踏まえて説明する問題。三人がいずれも書物を入手できずに苦勞したことを読み取れば方向は出るだろう。

通釈

(李濂は)ある時二人の息子を藏書閣にやって来させて彼らに教戒して言った。「昔の人々は書物を持たず、手に入れるのに大変苦勞をした。そしてすでに手に入れたならば必ず熟読して忘れなかった。今の人々は書物があっても読もうともしない。何とひどい誤りであろうか。昔王充は家が貧しくて、書物が無かった。いつも洛陽の書店に行き、売り物の本を読み、集中して暗記し、諸家の学に通じるようになった。臧逢世は班固の漢書を読もうと思ひ、長期間借りることが難しいことに苦しみ、親友に頼んで名刺や書簡の末尾の余白の紙を請い求め、自分でそれに書き写して、ついに漢書の学者として有名になった。陽城は書物を手に入れることができず、朝廷図書館の書物を写そうと思ひ、図書館の書物をこっそり読んだ。そして六年を経てすべてに精通した。そもそもこの三人は、家に書物が無かったためにこのように苦勞したのである。私は書物を建物いっぱい蓄えておいた。お前たちがこの書物を読むことに従うならば、街の書店で立ち読みしたり、名刺の反故を請い求めたり、宮廷図書館で書物を写したりしなくても、一生をかけて私の藏書を読んだとしても読み尽くせないほどであろう。昔の忠臣孝子や大学者の名声もみなこうしたところから始まったのだ。

だからお前たちは努力せよ。少しでも書物があっても読まないことが恥だと知り、力を尽くして学業を成し遂げ、将来名声を得たならば、世の人々はきつと『あれは某の子だ。父親が彼らをよく教え、彼らもまたよく学んだのだ』と言うであろう。（そうなれば）この蔵書閣にも光が当たるに違いない。そうでなければ、閣中の書物は虫や鼠や紙魚に食い荒らされるだけである。そうであればどんなに書物を多く集めても何の役に立つだろうか」と。